

大津市追分町～大津市京町

歩行距離 約4.1km
標準歩行時間 約1時間



京都の三条へ向かう道と、大阪へ向かう道との分岐点に建てられた追分の道標を過ぎ、名神高速道路の高架を抜けて国道1号を歩きます。途中の交差点で国道161号に進み、そのまま直進して大津駅前のゴールである札の辻へ。「京町一丁目」交差点に札の辻の碑があります。この付近では車の往來の激しい国道を歩くため、十分に注意しましょう。

大津城跡

坂本城の廃城後、豊臣秀吉により築城されました。城郭は浜大津の一角を占める水城形式であったとされていますが、城跡や縄張り図が残されておらず詳細は不明です。関ヶ原合戦の前哨戦（大津城攻防戦）では城主京極高次が東軍方に与して籠城し、西軍を足止めしたといわれています。最後まで落城しなかった天守は、縁起を担ぎ彦根城に移築されて現在も残っています。

●京阪電車 びわ湖浜大津駅下車すぐ

関蟬丸神社上社

逢坂の関の鎮守神として猿田彦の命を祀り、琵琶の名手として知られ「これやこの行くも帰るも別れつつしるもしらぬもあふさかの関」という歌でも有名な蟬丸大神が合祀されています。

●京阪電車 大谷駅から北東へ徒歩約5分



アクセス情報	乗り	路線	所要時間	下車駅
徒歩	淀屋橋駅	京阪本線特急	約50分	三條駅
	三條駅	徒歩	約1分	三條京阪駅
	三條京阪駅	京都市営地下鉄・京阪京津線	約13分	追分駅
	びわ湖浜大津駅	京阪京津線	約9分	追分駅
	上栄町駅	京阪京津線・京都市営地下鉄	約20分	三條京阪駅
	三條駅	徒歩	約1分	三條京阪駅
バス	三條駅	京阪本線特急	約50分	淀屋橋駅
	上栄町駅	京阪京津線	約4分	びわ湖浜大津駅

(2024年3月現在の昼間時の列車運行時刻をもとに記載)

東海道五十三次最大の宿場、大津宿

大津宿（東海道五十三次）は、東京の日本橋から数えて京までの道のりの最後の宿場であり、かつて2軒の本陣がありました。湖上舟運の要として、道の両側には70を超える旅籠がありました。

53次 大津宿 *	
人	□ 14,892人 (3,650軒)
本陣	2軒
旅籠屋	71軒
最寄駅	京阪 上栄町駅

*「東海道宿村大観」道中奉行所編 天保14年（1843）より

京街道宿場おすすめスポット [その巻]

守口宿

BUNROKU 文禄堤薩摩英国館

かつて淀川の氾濫から河内平野を守った堤防道「文禄堤」沿いのカフェ&ギャラリー。大正15年（1926）に建てられた建物内には、日本初、英国GTA（グレート・テイスト・アワード）にて金賞受賞の紅茶やティーグッズが揃うショップ、歴史情緒を残すティールームがあり、優雅なひとときを過ごせます。



パナソニックミュージアム

より良い暮らし、より良い社会を追い求め続けたパナソニックの創業者・松下幸之助。「パナソニックミュージアム」は、松下幸之助の経営観、人生観に触れられる「松下幸之助歴史館」、懐かしい家電製品に出合える「ものづくりイブズム館」、「さくら広場」で構成されています。



京阪百貨店守口店

京阪電気鉄道守口車庫跡地に守口市駅前再開発事業計画の中で建設され、昭和60年（1985）、開店しました。敷地の一角には、守口車庫・工場跡之碑が設置されています。



来迎坂

文禄堤の上の京街道から旧奈良街道へと向かう石段の下り道です。京街道との分岐点には「右ならのざきみち」と彫られた小さな道標があります。「のざき」は野崎参りで知られる野崎観音のある慈眼寺。幅1mほどの坂道は古の雰囲気を今に伝えており、今日でも多くの人々に利用されています。



枚方宿

京阪園芸ガーデナーズ

「バラの京阪園芸」として知られる昭和31年（1956）開業の老舗園芸店。オリジナルバラ品種の育種・栽培から販売まで、伝統と技術を誇ります。バラ愛好家に人気のF&Gローズや、日本・世界で人気の苗が揃い、またローズソムリエ小山内健を中心に様々なセミナーやイベントを開催しています。



枚方T-SITE

京阪本線 枚方市駅前に平成28年（2016）春、東京の代官山、湘南に続き関西発のプロジェクトとしてTSUTAYA発祥の地にオープンしました。「蔦屋書店」を中心に「楽しい日常を提案」する店舗が並び、様々なイベントやPOP-UP SHOPが開催されます。4階の7mの本棚は写真映えスポットとしても人気です。



枚方宿本陣跡（明治天皇御晝餐所）

枚方宿本陣は、天明5年（1785）に枚方宿が江戸幕府の役人に提出した書類によると、間口約20間、奥行約24間の敷地に建坪215坪の立派な建物が建っていたようです。参勤交代の大名が宿泊するときは、かなりの物々しきであり、ことに御三家である紀州藩の大名行列は有名でした。また、慶応4年（1868）の明治天皇大坂行幸の際、枚方宿本陣は、天皇の休息所にあてられました。明治3年（1870）に枚方宿本陣は廃止されました。枚方宿本陣跡碑は現在、枚方市の三矢公園内にあります。



淀川舟運と枚方船着場

江戸時代、枚方は京街道（東海道）の宿場町として、また、淀川を往来する三十石船の中継港としてにぎわっていました。明治時代になると淀川舟運は蒸気船が主役となりました。多いときは枚方浜に年間延3千隻前後の出入りがあり、この状況は明治43年（1910）の京阪電車開業の頃まで続き、蒸気船による曳船業は、昭和30年代の半ばまで石炭運送の一端を担っていました。平成29年（2017）9月より、淀川を往来した蒸気船をモチーフとして造られた船「ひまわり」の定期運航が往時の淀川舟運の舞台である八軒家浜船着場と現在の枚方船着場間で再開されています。

